

令和5年産 果樹情報（第4号）

令和5年8月14日
宮城県大河原農業改良普及センター

高温・乾燥等に注意して管理を行いましょう。

- ・ 果実の日焼けが多くなり、主枝、亜主枝の背面など直接日光が当たる部分は日焼けを起こしやすくなります。
- ・ ハダニ類の発生が多くなり、被害葉の葉焼け、果実肥大や花芽形成などに悪影響が出るおそれがあります。

1 気象経過

東北地方は、7月22日ごろ梅雨明けしたとみられます。梅雨期間の降水量（6月11日～7月21日まで）は、白石150.0ミリ（平年値251.7ミリ）、蔵王195.5ミリ（平年値236.6ミリ）でした。

高温に関する早期天候情報（令和5年8月10日14時30分仙台管区气象台発表）が発表されています。8月16日頃からはかなりの高温になる見込みです。熱中症対策を行い、健康管理等にも注意して、農作物の管理を行ってください。

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

表1 8月10日現在のりんご・なしの果実肥大状況（単位：mm）

樹種	地点	品種	令和5年		令和4年		平年値		平年比（%）	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	白石・郡山	ふじ	62.4	69.1	60.7	64.4	62.1	67.3	100	103
		幸水	71.9	87.8	69.5	84.6	61.4	74.1	117	119
なし	角田・豊室	豊水	72.4	81.6	63.8	71.9	60.7	69.5	119	117
		幸水	70.6	78.7	59.7	69.6	59.0	70.7	120	111
	蔵王・高木	豊水	64.5	73.4	59.1	67.1	56.8	64.2	113	114

3 樹種ごとの管理

（1）りんご

イ 葉摘み

葉摘みは収穫までに2回程度に分けて実施し、1回目は果実に直接ついた果そう葉、2回目は果実周囲の葉を摘み取ります。早期の葉摘みや、果実温度が上がっていない早朝に葉摘みを行うと日焼けを起こしやすいため、出来るだけ果実温度が上がった日中に実施します。

ロ 夏季管理

中晩生品種の修正摘果や支柱立て、枝つり等を行い、樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上を図ります。収穫前落果の多い品種には、落果防止剤を散布しましょう。

ハ 病虫害防除

・ 斑点落葉病、褐斑病、炭そ病

重要防除時期です。降雨前に十分な散布量を確保し、ムラのないように散布してください。

・ ハダニ類

高温・乾燥が続くと発生量が急増するので、園地内での発生状況に注意し、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布しましょう。

・ モモシンクイガ

6月初旬頃～9月上旬頃まで発生が続くので、定期的に防除します。

(2) 日本なし

イ 幸水、豊水の収穫

- ・ 熟期は、短果枝の果実は早く、長果枝の果実はやや遅い傾向があります。
- ・ 幸水は果皮色の進み具合に比べ、果肉熟度の進展が早いので、過熟果とならないよう適期収穫に努めましょう。
- ・ 豊水は適熟期の収穫に努め、同一樹でも主幹から2m以内の果実は熟期が遅れるので、数回に分けて収穫します。ただし、収穫遅れのないように注意しましょう。
- ・ 収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され、芯腐れ果が発生しやすくなります。できる限り気温の低い時間帯に収穫し、収穫後は、果実温度が上がらないよう速やかに涼しい場所に移し保管しましょう。

ロ 病虫害防除

・ 黒星病

病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、地中に埋めるなど適切に処分しましょう。また、10月上旬から11月上旬頃に秋季防除を行います。

・ ハダニ類

高温・乾燥の影響で発生が多くなっています。園地内での発生状況に注意し、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布しましょう。

・ ナシヒメシンクイ

年4回、4月上旬から9月末まで発生します。例年9月上旬が発生のピークで、8月下旬が防除適期になりますが、成虫発生時期に注意して薬剤防除を実施します。

(3) もも

イ 晩生品種の収穫

収穫前に降雨が多い場合や核に障害のある果実は、果肉の成熟が早まる傾向があるので、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように注意します。

ロ 病害防除

・ せん孔細菌病

発生園地では、収穫後の9月上旬から薬剤散布を2週間隔で計3回行います。

4 果樹カメムシ類

県内では、果樹カメムシ類の被害果が多く確認されています。園地内をこまめに見回り早期発見に努め、カメムシ類の飛来が見られる場合は速やかに防除を行ってください。(以下、宮城県病虫害防除所 令和5年8月4日発行 防除情報第6号より)

- ・ りんごにおける7月下旬の巡回調査の結果、被害果率はほぼ平年並であったが、発

生地点率は21.4%（平年 8.9%）で、過去10か年で最も高かった。（図1）

- なしでは、7月中旬の巡回調査と同様に、7月下旬の巡回調査でも被害果が確認された。被害果率はほぼ平年並であったが、発地点率は20.0%（平年 3.6%）で、過去10か年で最も高かった。（図1）

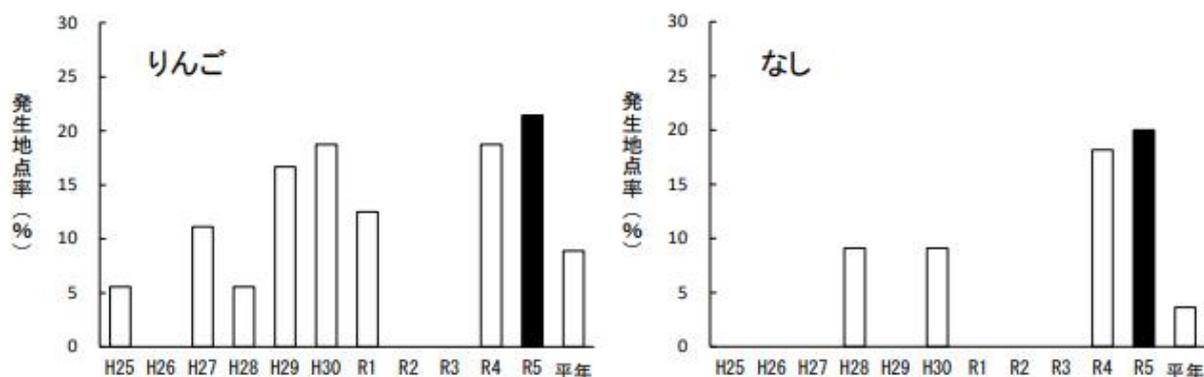


図1 果樹カメムシ類による被害果の発地点率

※(左):りんご、(右):なし

(病害虫防除所 7月下旬調査(平年:10か年平均))



クサギカメムシ チャバネアオカメムシ

写真1 県内における主要果樹カメムシ類



写真2 果樹カメムシ類による被害果

(左)りんご、(右)なし

5 高温にかかる技術対策

- 草生園では、草生の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぐようにし、刈り取った草は樹冠下に敷草する。
- 不要な徒長枝は切除するが、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにし、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じる。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量とする。
- 7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20 t /10a）程度を目安にかん水する。
- りんごでは、マルバカイドウを補助根として使用していないM.26やM.9が台木で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合があるので、かん水設備がない場合でもスปีドスプレーヤ等で水を運搬してかん水する。

農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)